

パンタール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2018年7月1日 178号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

建設の進む、エビ養殖の保温室



地下塩水によるエビ養殖の実現へ

レダ基地では、二〇一〇年以来、アスンシオン国立大学獣医学部と連携して、淡水魚パクーの養殖、人工孵化、稚魚放流等のプロジェクトを積極的に進めてきました。その経過はこれまで本紙やウェブサイトでもお知らせしてきたように、多くの人々の関心を集め、中央政府関係者、地元自治体をはじめ、幅広く住民の期待を担うようになりました。

これに加え、一昨年より淡水エビの一種であるオニテナガエビの養殖研究にも着手し、その十分な可能性のあることを、これまでに確認してきました。

オニテナガエビは、孵化してから稚エビに成長するまでの約一か月間、汽水域で生活します。パラグアイは内陸国ですが、チャコ地域の地下には大量の塩水のあることが知られ、これによる塩害が農耕を困難にし、人口過疎の一因でもありました。

この地下塩水は、天然の海水とよく似たミネラル成分を含んでいることも、同研究所の奥迫孝顕研究員による分析で判明しました。しかも天然の海水のような汚染が全く見られないので、海水養殖への応用が期待されています。

河川や湖沼は、水温の季節変動や昼夜変動が大きく、淡水の魚介類は温度変化に適応しているのに対し、水温が安定している海洋に棲む魚介類は、温度変化にあまり強くないので、その養殖においては水温の管理がとても重要です。日本の山奥の温泉地で、高級魚フグの養殖が盛んなのも、そのためです。

五月末、レダ基地で成長し、抱卵したエビから、



オニテナガエビ

約五〇%の孵化後生存率が観察されました。また六月末には韓国鮮文大の權赫樞教授が、研究生二名を伴ってレダ基地に赴き、本プロジェクトをパワーアップさせます。アスンシオン大学のマグノ教授も、パラグアイにとって画期的なエビ養殖に、共同研究の熱意を見せています。エビの生態の様々な不思議も解明されて行くでしょう。



パンタナール研究所に立った新看板は訪問者がよく見る。



今、レダ基地では

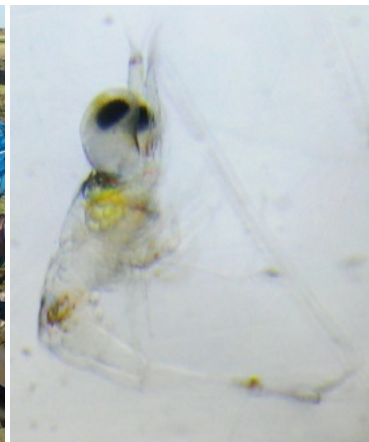
5月、北の空に輝く太陽。レダ基地公館前にて。



屋外養殖池で成長したエビ。



中田所長の考案によるエビの養殖池。



孵化直後のエビの顕微写真。



保温槽に内張りを施す、中田所長、上山氏、ほか。



エビ育成用保温槽の外枠を製作する水落氏。



河野さんが世話をしている羊のサン。



野口君が収穫した蜂蜜。搾る前。



アメリカレアに草を差し出すシストさん。

レダの体験と感想Ⅱ 一時帰国者が報告

六月十日（日）川崎市内の大山街道ふるさと館において開かれた当会の定例集会において、最近レダから一時帰国したばかりの四氏が、レダにおける体験と感想を報告しました。以下は、その要旨です。

●岩澤春比古氏（主報告者）「レダでは、環境に慣れるために、毎日が必死でした。そのためか、今も日本にいるという実感が湧きません。私たちの目標は、まず地球環境問題の克服。そのための植樹運動や稚魚放流、次に貧困と食糧問題の解決。そのための養殖や農業研究さらに世界の青年と指導者の教育、そのための奉仕隊派遣や諸研修会、そしてすべては神と人類と万物の福地である、世界平和地球村の建設へと続きます。レダに行つて、中田所長が最もやりたいことが教育であることも分かりました。実際、教育施設の維持・修理には多大な労力が投入されています。教育プログラムでは、講義の後、奉仕活動、農作業、養殖関連作業、釣り、ほか様々な体験学習が行われます。青年たちが感動するのは、古い先輩たちが初心を忘れず、献身的に汗を流している姿で、これを直接見て、自ら体験すること、指導者としての資質が育っています。提唱者の文先生は『皆さんは、ブラジルのジャルジンと、パラグアイのレダを中心として展開している理想村建設に同参しなけ



前列右より、岩澤氏、権教授、中田所長。

や稚魚放流、次に貧困と食糧問題の解決。そのための養殖や農業研究さらに世界の青年と指導者の教育、そのための奉仕隊派遣や諸研修会、そしてすべては神と人類と万物の福地である、世界平和地球村の建設

ればなりません』と語られました。レダには、本当に見せるもの、そして死守すべきものがあるのです。」

●吉村敏明氏「三か月間、あつという間でした。行くとき、養蜂をしている青年のためにスズメバチ駆除用の防護服を持って行きましたが、大変重いものです。日本のミツバチ用の防護服では、レダのミツバチの針を防げないのです。先回、中田所長に、いつレダに来れば最も助けになるかと尋ねたら、稚魚の放流式の時だとのことでした。それで三月、放流式の前にレダ基地に赴き、実行のお手伝いをして来ました。四月に日本から到着した青年と合わせ、レダでは二十名近くの青年たちを指導して、式典の準備、特に清掃を徹底的に行いました。彼らは細かい部分をな



河野さん（左）、福島さんとともに。

釣ったパクーを手に、吉村氏。細かい部分をな



釣ったパクーを手に、吉村氏。

れいにせず、工具室、公館、ほか全施設をとて

●大和田法生氏「私は、食料や生活必需品の調達と

管理など、日常を支える業務を担当しているので、ありきたりのことしか報告できないかもしれません。



備蓄品を管理する大和田氏。

新しいプロジェクトが進展する中、中田所長や上山氏の手足となるべく、たとえ不十分でも、そのように努力しました。養豚担当の木村君や、奥迫さんの手伝いをしている梶本君は、上司が不在の時も立派に業務を遂行していて、頼もしいです。アメリカから来たチームのメンバーで、一人レダに残った園田君は、何にでもすごい集中力で取り組みます。福島さんは、あの工具室を、見違えるほどきれいにしました。すべての青年にそのような姿勢が見られます。日本に来てみると、あらゆるものがよく整つて、きれいです。日本のよきものをしっかりと掴みとって、またレダで頑張ります。」

●前川稔氏「レダでの一年は、あつと言う間に過ぎました。また、日本では感じることもなかった、体力の限界も感じました。大山氏も言われるように、レダでは本心の命ずるまでに、ぶつ倒れてもやるのだ、死んでもやるのだ、という覚悟で歩きました。初心に帰り、来世に旅立つ前に、何かまとまったものを成し遂げたいという思いです。皆様、体が動けるうちにレダに行くのがよいと思います。」



レダに帰って来た前川氏と野口君。

前川ハラボジと呼んでください。



前川ハラボジと呼んでください。

第十七回一日特別研修会(案内)

パンタナール一日特別研修会(ワンデイセミナー)を、左記の要領で開催します。この夏、両半球視点に立ち、価値あるライフワークを構想するための資料を探してみませんか。会場は、従来の二倍の定員を有するセンター棟に変わります。ご家族、親戚、友人・知人のグループ参加も大歓迎です。

日時…七月二十一日(土) 十時受付、五時終了予定
会場…国立オリンピック記念青少年総合センター、センター棟四階四〇二室(小田急線参宮橋駅徒歩七分または渋谷駅西口40番乗場バス代々木五丁目下車)
参加費…二〇〇〇円(昼食を含む) 当日受付にて参加を希望される方は、ファックスまたはメールで、

下記の当法人事務局宛てお申し込みください。(応募用紙の請求も) 共催…一般社団法人 南北米福地開発協会、NPO法人 地球の緑を守る会

プログラム

- 「レバレンド・ムーンの思想とレダ開発」講師…柴沼邦彦(当法人理事)
- 「レダと日本における植樹活動」講師…高津啓洋(NPO法人地球の緑を守る会代表理事)
- レポーター 岩澤春比古氏(一時帰国中のレダ基地スタッフ、レダの活動を体験した青年、他。



柴沼邦彦当法人理事



高津啓洋NPO代表理事

世界村、富士登山のすすめ

富士山は、二〇一三年に文化遺産としてユネスコに登録された世界遺産です。夏の開山期間中は、国内外から多数の登山者が富士山を目指し、山頂、登山道、山小屋は、世界村の様相を帯びます。二〇一七年は、二八万五千人が、富士山に登りました。富士山に関する情報はすでに豊富にあつて、容易に入手できるので、ここでは「世界村」らしきについて触れます。それが現れるのは、わずかに二か月ほどの夏山シーズン。世界各地からやって来た人々が、四本のルートから、それぞれ山頂を目指します。一歩一歩大地を踏みしめ、次第に頂上に集結して行く様子は、同じ目標があれば、人は一つに集うのだということを実感させます。

登頂を果たした人々の笑顔。飛び交う多くの言語。とても賑やかな富士山頂になります。でも、日の出の時間が迫ると、「ご来光」を見るために、皆の目が一点に集中し、デジカメやスマホを向けて、静まり返ります。



富士山頂から望む、朝の影富士

地平線に日輪が現れる瞬間、一斉に上がる歓声と拍手。そしてぐんぐん昇る真っ赤な太陽に照らされた顔は、皆同じ色！真っ赤です！急いで人と握手をしましょう。挨拶しましょう。だれでも構いません。もはやみんな同じ村人。富士山にいてという喜びを共有したい人ばかり。そこには経済格差もありません。登山道も、山小屋も、「エコノミー」しかありません。同じバスに乗って、同じ道を歩いて、同じ部屋に寝て、同じものを食べて、同じ体験と時間を共有する。これが、富士山において、特に顕著なのです。生涯に一度は登りたい富士山。どうせ登るのなら、できるだけ素晴らしい体験をしましょう。お奨めは、平日の須走ルートです。(小田記)

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行(旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

会員種別

◆会員一口1000円/月

◆特別会員一口1万円/月

◆法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名: シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



ルリシジミ

読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局:

office@asd-nsa.com

へお願いします。